



「選挙に行こう！」 高校生も地域社会に参画

2月8日、市・市内各県立高等学校主催、市議会・市選挙管理委員会・市明るい選挙推進協議会の後援で初めて開かれた「高校生議会」。市内5校から4人ずつ20人が議員として選ばれ、市政について質問を行いました。

高校生の質問に、市長や教育長、市執行部が答弁する「一般質問」の形式をとり、議長・副議長も高校生が担当。通常の本会議さながらに行われました。一般質問は議員20人全員が登壇。市のイメージアップ、防災対策、通学路の安全確保など、高校生ならではの若い感性で意見やアイデアを市に投げかけ、緊張感のある議会となりました。

菅谷市長は「古河市が本当に若者に選ばれる市として活気づいてほしい。若い世代が政治に対する関心と参画意識を持ってもらえば」と、また、高校を代表して古河第一高等学校の佐藤誠校長が「この経験を友人、家族に伝えてほしい。若い子たちが政治を変えるのだから」と感想を話していました。



▲高校生の鋭い質問に真剣に答弁する菅谷市長



▲議長を務めた海沼駿太さん(写真上)と大山克実さん(写真右)



▲古河第三高等学校では教頭先生に啓発グッズを手渡し

▶三和高等学校では生徒会役員に18歳選挙権をPR



高校生に選挙啓発グッズを配布

古河市選挙管理委員会と古河市明るい選挙推進協議会は、茨城県の「18歳選挙権周知啓発統一キャンペーン」(2月8日～14日)の一環として啓発グッズを作成し、市内高校生にファイル1,000枚を配布しました。

合併10周年記念キャラクター「万寿王丸」等が印刷されたファイルには『18歳だ。投票に行こう!!』というメッセージ付き。市では若者が自分の住む地域に関心を持ってもらい投票率向上に結び付けるため、今後も幅広い世代に向けて啓発活動に取り組みます。